

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-225641

(43) 公開日 平成11年(1999) 8月24日

(51) IntCl.<sup>6</sup>

A 0 1 K 97/18

識別記号

F I

A 0 1 K 97/18

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平10-35733

(22) 出願日 平成10年(1998) 2月18日

(71) 出願人 597169971

北山 實

和歌山県日高郡美浜町和田1868の5

(72) 発明者 北山 實

和歌山県日高郡美浜町和田1868の5

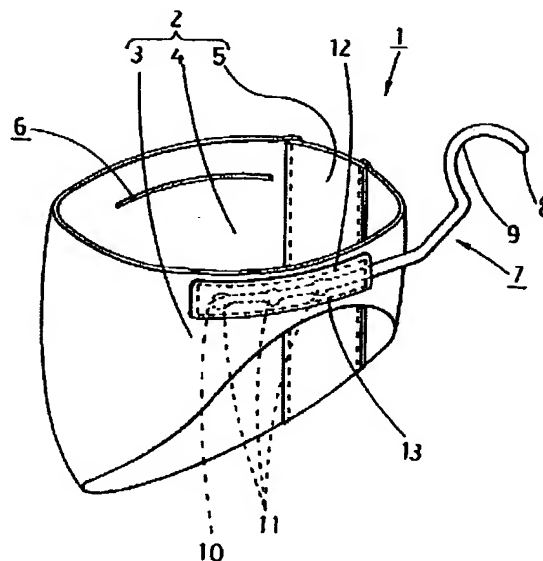
(74) 代理人 弁理士 杉本 巖 (外1名)

(54) 【発明の名称】 釣魚外し具

(57) 【要約】

【課題】 釣りに夢中になっても紛失したりせず、釣魚を手でつかむことなく釣針から簡単に外すことのできる釣魚外し具を提供すること。

【解決手段】 この釣魚外し具1は、掌を被う被掌部3と手甲を被う被甲部4とから筒状に形成された手装着体2と、手装着体2の被掌部3に取り付けられて釣魚に掛かった釣針を掛止する針掛止棒7とを備え、針掛止棒7は、四本指長手方向とはほぼ直角横向きで被掌部3に取り付けられる棒本体10と、棒本体10から人差指先端側に向けて屈曲し更に先端が親指側へ折り返されている略U字状のフック部9とから構成されているとともに、針掛止棒7のフック部9は親指と人差指との間に掌から突出して配置されている。また、フック部9は、手装着体2に手を装着した状態で親指が届く位置に配置されている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 掌を被う被掌部と手甲を被う被甲部とから筒状に形成された手装着体と、手装着体の被掌部に取り付けられて釣魚に掛かった釣針を掛止する針掛止棒とを備え、針掛止棒は、四本指長手方向とほぼ直角横向きで被掌部に取り付けられる棒本体と、棒本体から人差指先端側に向けて屈曲し更に先端が親指側へ折り返されている略U字状のフック部とから構成されているとともに、針掛止棒のフック部は親指と人差指との間に掌から突出して配置されていることを特徴とする釣魚外し具。

【請求項2】 フック部は手装着体に手を装着した状態で親指が届く位置に配置されていることを特徴とする請求項1に記載の釣魚外し具。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、釣魚を手でつかむことなく釣針から簡単に外すことのできる釣魚外し具に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】近年、船上、波止場上、あるいは、釣り筏上などからサビキ釣や一本釣などの魚釣りが盛んに行われている。釣り上げた魚を釣針から外すにあたっては、一般に片手で魚体をつかみ、他方の手で釣針を外していることが多い。そのため、魚の背びれや腹びれが刺さって、知らぬ間に掌のあちこちを傷めていることがあり、そのまま放置すると掌が荒れて大変であった。一方、つかんだ手には魚特有のぬめりが付着するので、魚を釣り上げる度に手を洗うのが理想的であるが、海面から高い場所などでは手洗いでできないことがある。そのため、釣竿の握り部分がヌルヌルして滑りやすくなり、釣りの途中で度々竿を拭わなければならない事態が生じる。

【0003】そこで、金属棒からなる市販の釣魚外し具を手元に置いて使用するようにしたのである。但し、その場合でも片手で魚体をつかみ、他方の手で釣魚外し具を持って釣魚を外さなければならないので、掌が傷ついたり汚れたりすることには変わりはない。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところで、魚がよく釣れる頃合になると、釣人は釣り上げた魚を前記の釣魚外し具を用いて素早く外そうとする。しかしながら、魚外しに手間がかかりそれに加えて、隣の釣り人がよく釣れているのを見ると、尚更早く釣針を海に投げ入れようと気が焦る。そこで、つい、手に持っていた釣魚外し具を釣針とともに海に投げ込んでしまうことがある。このように釣魚外し具を失ってしまったのでは、せっかく持参したのにも拘らず釣魚外し具を有用に使用できないこととなる。その結果、再び釣魚を手でつかんで掌を傷つけるといったことが繰り返される。本発明者は無類の釣好きであり、楽しく釣りをしようと思って出掛けるのだ

が、帰るときは釣魚外し具を紛失し、手を傷つけ、そのうえ手を十分に洗ったつもりでも洗い切れず、失望感の残ることが多かった。

【0005】本発明は、上記した従来の問題点に鑑みてなされたものであって、釣りに夢中になっても紛失したりせず、釣魚を手でつかむことなく釣針から簡単に外すことのできる釣魚外し具の提供を目的とする。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明に係る釣魚外し具は、掌を被う被掌部と手甲を被う被甲部とから筒状に形成された手装着体と、手装着体の被掌部に取り付けられて釣魚に掛かった釣針を掛止する針掛止棒とを備え、針掛止棒は、四本指長手方向とほぼ直角横向きで被掌部に取り付けられる棒本体と、棒本体から人差指先端側に向けて屈曲し更に先端が親指側へ折り返されている略U字状のフック部とから構成されているとともに、針掛止棒のフック部は親指と人差指との間に掌から突出して配置された構成にしてある。

【0007】また、前記の構成におけるフック部は、手装着体に手を装着した状態で親指が届く位置に配置されているものである。

## 【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。図1は本発明の一実施形態に係る釣魚外し具を示す外觀図、図2はこの釣魚外し具の平面図である。各図において、本実施形態による釣魚外し具1は、掌を被う被掌部3と手甲を被う被甲部4とから筒状に形成された手装着体2と、手装着体2の被掌部3に取り付けられ釣魚に掛かった釣針を掛止する針掛止棒7とから主に構成されている。この針掛止棒7は手装着体2に一体的に取り付けられている。尚、この釣魚外し具1は右手用である。

【0009】手装着体2は例えばポリ塩化ビニルシート材で主に構成されており、被甲部4の一部は例えば糸ゴムを綿糸とともに織り込んでなる伸縮部5として構成されている。但し、この伸縮部5の代わりに、被甲部4にフック面ファスナおよびループ面ファスナの双方を設けておき、これらの面ファスナで手装着体2のフィット調整を行うようにしてもよい。また、手甲の第1関節と対面する部分の被甲部4には、横に長いスリット部6が形成されている。そして、手装着体2の小指側を被う部分は、手から抜け落ちないよう、幾分丸みを帯びて膨出させてある。

【0010】針掛止棒7は、四本指長手方向と直角横向き（すなわち、掌の遠位手掌皮線ないし近位手掌皮線に沿って）に手装着体2の被掌部3に取り付けられる棒本体10と、棒本体10から先ず人差指先端側に向けて屈曲しその後親指側へフック先端8を折り返して形成された略U字状のフック部9とから構成されている。針掛止棒7は、固定布材12により被われ縫糸13で縫着され

て被掌部3に取り付けられている。棒本体10には複数の張出部11が形成されており、針掛止棒7が固定布材12から抜脱しないようになっている。但し、固定布材12は縫着でなく、接着材や熱融着などにより手装着体2の被掌部3に取り付けても構わない。

【0011】この針掛止棒7のフック部9は、図3のように、親指Sと人差指Mの間の空間に掌から突出して配置されている。また、フック部9は、図4に示すように、手装着体2に手を装着した状態で親指Sが届く位置に配置されている。

【0012】引続き、釣魚外し具1による釣魚外し動作について説明する。この釣魚外し具1は多くの種類の釣魚に対し適用できるが、特に小アジ、小サバ、イワシなどのように身が柔らかく頻繁に釣れる魚種に好適である。まず、魚を釣り上げたときは、図5に示すように、釣竿からの釣糸14に針掛止棒7のフック部9を引っ掛けて手前に引き寄せる。そして、図6に示すように、釣針15から15〜25cm上方の釣糸14を左手で持ち、持った位置よりも下の釣糸14へ針掛止棒7のフック部9を掛け直す。そして、釣針15が掛かった釣魚Fの口元までフック部9を滑らせて、左手に持った釣糸14を少し下に降ろす。同時に針掛止棒7を釣魚Fとともに上に持ち上げると、釣糸14は左手で持った部分が下になってV字状になる。

【0013】すると、釣針15はその湾曲部分がフック部9を跨いだ状態で掛止され、針先は釣魚Fの体重により自然と下向きになる。これにより、釣魚Fが少し跳ね動いたり、あるいは右手を軽く上下させるだけで、釣魚Fは自重によりいとも簡単に釣針15から外れて落下する。一方、釣針15に掛かった釣魚Fが外れにくいときは、図7に示すように、補助的に親指Sで釣針15近傍の魚体を上から軽く押さえるだけで、釣魚Fは確実に釣針15から外れて落下する。

【0014】因みに、釣魚外し位置の下方にクーラなどの入れ物を置き、その上方で釣魚Fを外すようにすれば、釣魚Fは入れ物に直接入るので、従来のように手で魚をつかむ必要が一切なく、手を傷つけたり魚のぬめりが掌に付着するようなこともない。また、この釣魚外し具1を使用することにより、手で釣魚Fを強く握り過ぎて魚を弱めるといったこともなく、クーラなどに活きのよい魚を取り込むことができるのである。

【0015】また、針掛止棒7のフック部9は親指Sと人差指Mとの間に掌から突出して配置されているので、他の作業を行う場合でも何ら支障を生じるものではない。例えば、図8に示すように、右手に釣魚外し具1を装着したまま両手で釣糸14、14を結ぶといった、細かな作業を行う場合でも作業の邪魔にならない。

【0016】加えて、手装着体2の一部に伸縮部5を用いているので、素手の場合は無論のこと、釣用手袋などを装着した上からでも手装着体2の装着・取外しを無理

なく行うことができる。また、被甲部4にスリット部6を形成してあるので、手を握ったときスリット部4が開き、装着時でも容易に手を開いたり閉じたりできる。これにより、指も自由動作することができ、装着による違和感を全く感じさせない。そして、掌は大部分が手装着体2の被掌部3で被われていることから、防寒効果があり、釣魚のひれなどが触れたとしても掌の傷つきを防止できる。

【0017】尚、上記の実施形態では、右手用の釣魚外し具を例示したが、左手用として構成することも可能である。

【0018】また、フック部の略U字形状とは、文言通りU字形状を指すのは無論のこと、V字状や逆Ω字状などの形状も含み、釣針の湾曲部分を掛止保持できる形状であればよい。

【0019】

【発明の効果】以上述べたように、本発明に係る釣魚外し具においては、棒本体から人差指先端側に向けて屈曲し、更に先端が親指側へ折り返されている略U字状のフック部が、親指と人差指との間に掌から突出して配置されているから、フック部を釣糸に引っ掛けた状態で釣糸に沿って案内すると、釣糸先端に結ばれている釣針がフック部に掛かる。すると、釣針の針先は釣魚の重みにより下を向く。従って、釣魚自身が暴れて動いたり、あるいは少し針掛止棒を上下に手で揺するだけで、釣魚をその重みにより針先から簡単に外すことができるのである。また、釣魚外し具は釣りの最中において常時手に装着されるので、釣りに夢中になっても紛失することがなく、魚外し具として有用に使用することができる。更に、他の作業も各指の動作が自由であるから、何ら支障を生じない。

【0020】そして、手装着体2に手を装着した状態で親指が届く位置にフック部を配置してあるので、釣魚がしっかりと掛かって外れにくいような場合でも、釣針の掛かっている位置近傍の魚体を親指で補助的に押すだけで、釣魚を釣針から確実に外すことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態に係る釣魚外し具を示す外観図である。

【図2】前記釣魚外し具を示す平面図である。

【図3】前記釣魚外し具を手で装着した態様を示す外観図である。

【図4】前記釣魚外し具を装着した状態で手を握った態様を示す外観図である。

【図5】前記釣魚外し具で釣糸を引っ掛けた態様を示す外観図である。

【図6】前記釣魚外し具のフック部に釣針を掛けた態様を示す外観図である。

【図7】釣針に掛かった釣魚を親指で補助的に外す態様を示す外観図である。

5

6

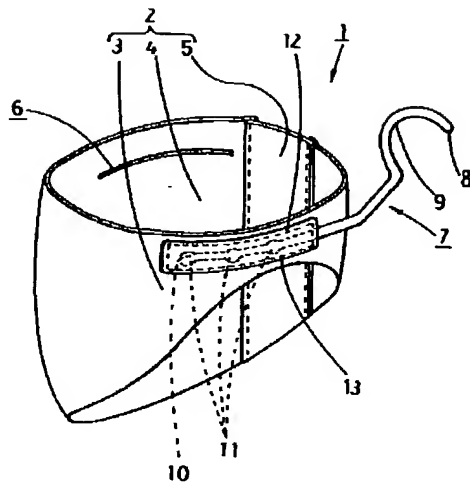
【図8】前記釣魚外し具を装着したまま両手で作業する  
態様を示す外観図である。

【符号の説明】

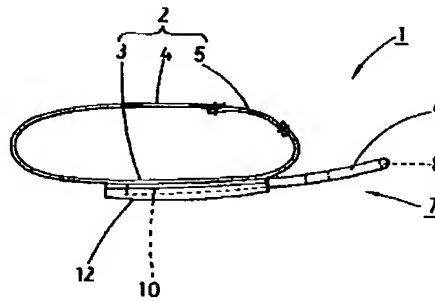
- 1 釣魚外し具
- 2 手装着体
- 3 被掌部
- 4 被甲部
- 7 針掛止棒

- 8 フック先端
- 9 フック部
- 10 棒本体
- 15 釣針
- F 釣魚
- M 人差指
- S 親指

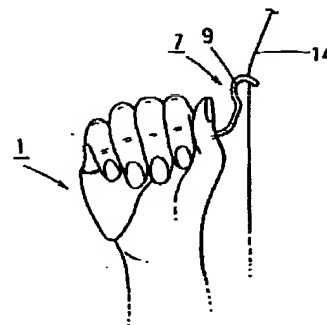
【図1】



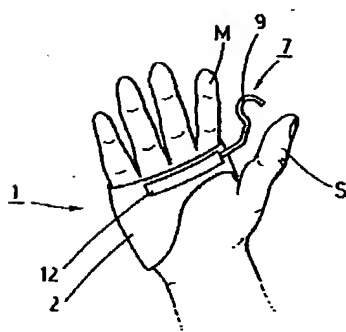
【図2】



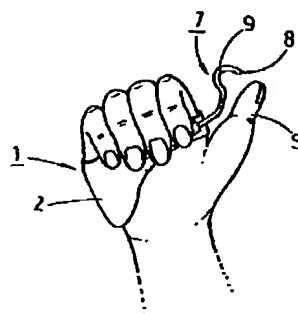
【図5】



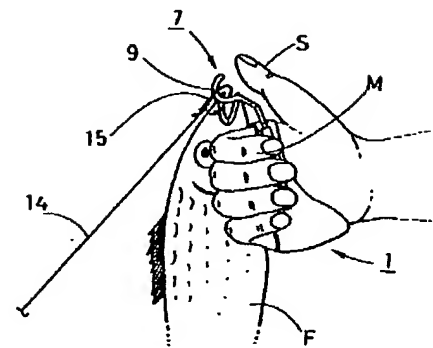
【図3】



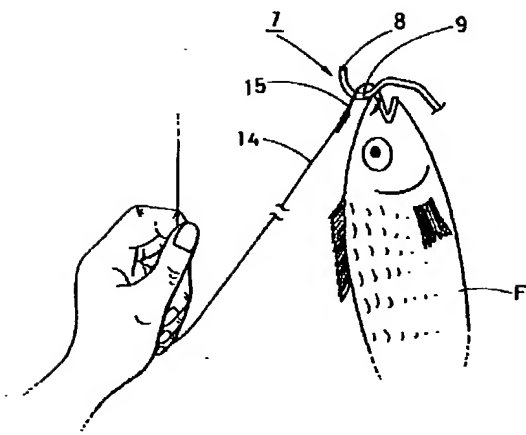
【図4】



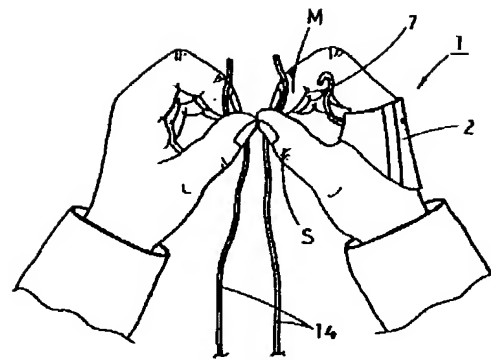
【図7】



【図6】



【図8】



PAT-NO: JP411225641A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11225641 A  
TITLE: TOOL FOR DETACHING FISH  
PUBN-DATE: August 24, 1999

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

KITAYAMA, MINORU

COUNTRY

N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

KITAYAMA MINORU

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP10035733

APPL-DATE: February 18, 1998

INT-CL (IPC): A01K097/18

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a tool for detaching fish not being lost even in forgetting oneself in fishing, capable of simply detaching a fish from a hook without grasping fish by hand.

SOLUTION: This tool 1 for detaching a fish is equipped with a hand covering body 2 cylindrical made of a part 3 for covering the palm of the hand and a part 4 for covering the back of the hand and a hook latching bar 7 which is attached to the part 3 for covering the palm of the hand of the hand covering body 2 latches a hook catching a fish. The hook latching bar 7 is composed of a bar main body 10 which is attached in a direction

approximately perpendicular  
to that of four fingers crosswise to the part 3 for  
covering the palm of the  
hand and an approximately U-shaped hook part 9 which is  
bent from the bar main  
body 10 to the tip side of forefinger and is folded back at  
the tip end. The  
hook part 9 of the hook latching bar 7 is arranged  
protrusively from the palm  
between a thumb and a forefinger. The hook part 9 is  
arranged at a position of  
a forefinger reach in a state of the hand covering body 2  
fixed to the hand.

COPYRIGHT: (C)1999, JPO